

○集落独自ブランド「沢田米」の販売による集落活性化

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	新潟県魚沼市水沢 <small>うおぬましみずさわ</small>			
協定面積 28.4ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交付金額 596万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	農業生産体制の整備に向けた活動経費		34%
		道・水路管理費、農地管理費		7%
		集落活性化のための事業費		3%
役員報酬、事務的経費		6%		
協定参加者	農業者 35人、水沢生産組合（構成員21人）			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、集落戸数29戸、うち農家数は21戸で、高齢化の進行に伴う担い手不足が懸念されている。また、平成16年の中越大震災で全村避難を行った旧山古志村に隣接しており、甚大な被害を受けている。

そこで、中山間地域等直接支払制度の第2期対策を契機に、震災からの復興、次世代に農地をどのように引き継ぐかを話し合い、集落全体をまとめた農業法人の設立を目指すこととして、農業機械の整備や生産組織の設立、集落の独自ブランド「沢田米」の商標登録に取り組んできた。

さらに第3期対策においては、「沢田米」の販路拡大、法人化に向けた生産組織の体制整備などに取組み、集落の活性化を図ることとしている。

3. 取組の内容

周囲を山の峰で囲まれている当集落では、生活雑排水が入らない自然の沢水だけで育てた魚沼産米を「沢田米」として商標登録し、展示商談会や県内イベントなどに積極的に参加して直接販売に結びつけている。この「沢田米」の販売を契機として、都市住民との農業体験交流が開始され、集落ぐるみでの受入に取り組んでいる。

また、集落の景観整備のため、花いっぱい活動や水芭蕉の植生を行うとともに、震災後途絶えていた隣接集落との交流再開などにより、集落の活性化を図っている。



【水沢集落と棚田】



【沢田米の販売】

[集落の将来像]

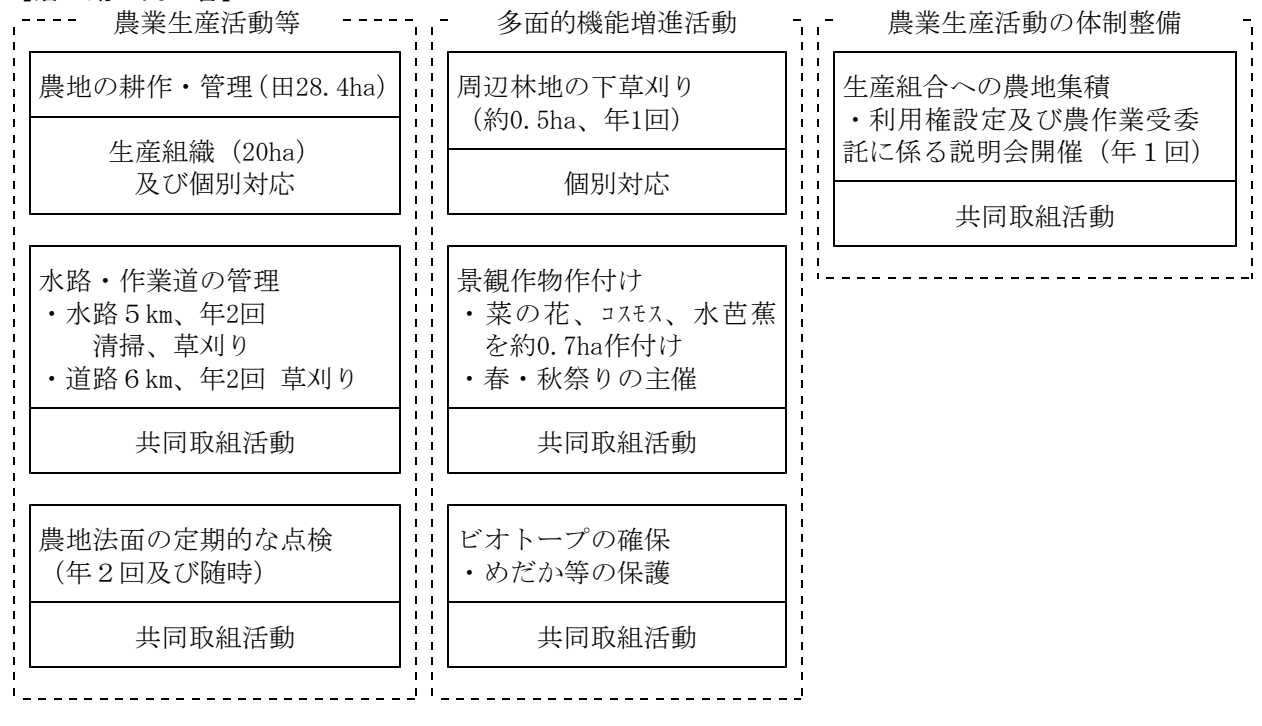
集落全体を包括した農業法人を結成し、集落の農地を守るとともに、商標登録した独自ブランド「沢田米」の販売網を構築する。さらに、都市との交流を促進し、これらの活動を通じて集落の維持発展を目指す。



[将来像を実現するための活動目標]

- 「沢田米」の販売網拡大
- 農業法人化に向けた体制整備

[活動内容]



4. 今後の課題等

イベント等を通じた「沢田米」の販売増加や都市住民との体験交流の受入によって、集落の自信と話題づくりにつながっている。

今後、集落の活性化のために、独自ブランドとしての「沢田米」の認知度をさらに高め、安定した販売網の確保を図るとともに、生産組織への集落農地の集積、組織体制の整備により農業法人化に向けて取り組むことが課題である。

また、都市住民等との体験交流活動の継続、拡大のため、集落のPR及び受入体制の確立が課題である。

[第2期対策の主な成果]

- 農業機械の共同利用等による営農の効率化・低コスト化
 - ・担い手への農作業委託 (H17: 2ha、目標: 5ha、H21: 8.9ha)
 - ・機械・農作業の共同化 (H17: 1ha、目標: 5ha、H21: 19.1ha)
- 認定農業者等を中心とした営農体制の整備
 - ・認定農業者数 (H17: 1名、H21: 6名)
- 「沢田米」の商標登録及び有利販売の開始
- 集落の近隣集落との交流会の実施